地域再生計画

１　地域再生計画の名称

健幸のまちづくりを活かしたヘルスケア産業創出推進計画

２　地域再生計画の作成主体の名称

高石市

３　地域再生計画の区域

高石市の全域

４　地域再生計画の目標

４－１　地方創生の実現における構造的な課題

・臨海コンビナートを除くと市域の大部分が住宅地であり、目立った特産品や産業がみられない。そのため、臨海コンビナート以外の市内の雇用先が少なく、自市内従業者割合については、25～29歳が17.8%、30～34歳が18.9%と、特に若者を中心に市民の多くが大阪市内を中心とした市外に勤務している。結果として、市外での民間消費の割合が大きく、子育て世代を中心に人口の社会減が大きくなっている。

・中小企業においては、商品開発に当たってのアンケートやモニタリングなどにかけることができる予算が少なく、商品・サービスの十分な効果の検証が難しい。

４－２　地方創生として目指す将来像

高石市は、健幸長寿社会を創造するスマートウエルネスシティ総合特区として、健幸づくりの様々な取組みを行ってきた。取組みの一環として行っている健幸ポイント事業（健幸づくり関連事業への参加や歩いた歩数によってポイントを与え、健幸づくりの個人インセンティブを与える事業）によって、ウォーキング事業などへの参加者が増加している。

これらの健幸づくりの取組の効果をヘルスケア産業の育成や地域コミュニティの強化、地方創生人材の育成に波及させるべく、ヘルスケア産業関連商品・サービスについて、シーズ・ニーズマッチング、開発、普及促進の一連の流れについての支援を整備し、ヘルスケア産業を新たな主要産業とするとともに、健幸づくりの取組みを一層深化させる。

【数値目標】

	事業開始前（現時点）	平成29年度増加分（１年目）	平成30年度増加分（２年目）	平成31年度増加分（３年目）	KPI 増加分の累計
本事業から生まれた新規雇用者数（人）	0	0	15	25	40
健幸のまちづくり協議会への参加法人数（法人）	0	50	20	30	100
人材バンク登録者と企業とのマッチング数（事業）	0	5	7	10	22
高石市版健幸リビング・ラボを通じた新事業の形成数（事業）	0	0	3	5	8

５　地域再生を図るために行う事業

５－１　全体の概要

健幸づくりに対する個人インセンティブ制度である健幸ポイント事業などを通じて健幸づくりに先進的に取組んできた強みを生かすべく、健幸ポイント事業を継続するとともに、保健センター内の未活用フロアをヘルスケア産業の育成拠点とし、健幸ポイントで計測したデータを活用しつつ、ヘルスケア関連商品のモニタリングやユーザーとの共同開発を行うリビング・ラボ（高石市版健幸リビング・ラボ）を形成することで、今後の成長産業と見込まれるヘルスケア産業の創出・ローカルイノベーションを目指すとともに、“健幸のまち”としての地域ブランディングの強化を図る。

５－２　第５章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生推進交付金（内閣府）:【A3007】

①　事業主体

高石市

②　事業の名称：

健幸のまちづくりを活かしたヘルスケア産業創出事業

③　事業の内容

保健センター内の未活用フロアをヘルスケア産業の育成拠点とし、健幸づくりに先進的に取組んできた強みを生かして、ヘルスケア関連商品のモニタリングやユーザーとの共同開発を行うリビング・ラボ（高石市版健幸リビング・ラボ）を形成することで、今後の成長産業と見込まれるヘルスケア産業の創出・ローカルイノベーションを目指すとともに、“健幸のまち”としての地域ブランディングの強化を図る。具体的には以下の取組みを行う。

（１）健幸リビング・ラボの設置

市保健センターの未活用フロアを活用し、高齢者向け、健康づくり関心層向けの商品開発時のモニタリングやユーザーとの共同開発を行うためのワークショップを定期的に開催し、商品開発手法を指導する。あわせて、商品開発を行う企業が高齢者・健康づくり関心層への独自のモニタリングやセミナー等を行うための占用貸しを行うとともに、占用使用以外の時間帯については、コワーキングスペースとして活用することで、企業同士、企業と市民との日常的な交流を促す。また、

新規事業の企画・立案に関する経験・ノウハウ・スキルや健幸ヘルスケア産業への知見、官民連携事業の推進に必要な人脈・ネットワークを有する専門人材を雇用することにより、より発展的な新規ヘルスケア産業の育成を円滑に行う。

（２）人材バンクの設置

退職高齢者を中心に、人材バンクを設置し、退職高齢者の持つ技術やノウハウと商品開発のために必要な技術やノウハウとのマッチングを図る。

（３）健幸ポイント参加者の健康状況の見える化

健幸リビングラボにおける商品開発に当たっての効果検証に健康状況のデータを活用できるよう、ICT システムを活用し、健幸ポイント参加者の体組成、健康づくりの取組み状況を見える化する。

（４）創業型コミュニティカフェの普及啓発拠点化

地方創生加速化交付金を活用し、多世代包括コミュニティの拠点として設置した創業型コミュニティカフェに対する空き店舗の提供に係る支援を自立までの間継続するとともに、健幸のまちづくりに関する普及啓発拠点としての機能を強化し、モニターの募集等に活用する。

（５）健幸フェスティバル＆高石マルシェの展示会化

地方創生先行型交付金を活用して開始した同事業について、市民の健幸意識の向上や健幸のまちづくり協議会（以下「協議会」という。）で実施する事業の周知、ヘルスケア産業関連事業の紹介などの普及啓発の展示会として位置づけなおし、ブース設置による展示・販売及び市民意識啓発のためのウォーキング事業をあわせて行う。

④　事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

平成２９年度・平成３０年度の事業の実施状況を踏まえ、利用料を設定し、事業の原資とする。また、ヘルスラボの拠点となる保健センター１Fについて、事業１年目・２年目の使用状況を踏まえつつ、収益施設の設置を検討する。

【官民協働】

事業実施主体を新たに制定した健幸のまちづくり条例に基づく産官学の協議会とすることを予定しており、協議会における議論を通じて官民協働を図ることができる。また、地域に根ざした日本郵便と健幸づくりを超えて、地域の相談窓口の役割を担ってもらうなど、幅広く連携することにより、健幸づくりの取り組みにとどまらず、あらゆる

分野での官民協働の成果が期待できる。

【政策間連携】

健幸づくりのための保健事業を集客として捉えることで、ヘルスケア産業の創出につなげることとしており、また、これを通じて更に新たなコミュニティの創出や保健福祉に関する行政課題の解決が期待される。

【地域間連携】

健幸フェスティバル＆高石マルシェにおける友好都市の物産の販売や、同様の取組を行う自治体とのヘルスケア関連商品・サービスの実証のためのモニタリング環境の共有。

【その他の先導性】

保健センターの１Fという健幸に関連する集客の場をヘルスケア産業の育成の拠点として形成し、また、健幸づくりのインセンティブ事業である健幸ポイント事業と連携することとしていること。

⑤　重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

【数値目標】

	事業開始前（現時点）	平成29年度増加分（１年目）	平成30年度増加分（２年目）	平成31年度増加分（３年目）	KPI 増加分の累計
本事業から生まれた新規雇用者数（人）	0	0	15	25	40
健幸のまちづくり協議会への参加法人数（法人）	0	50	20	30	100
人材バンク登録者と企業とのマッチング数（事業）	0	5	7	10	22
高石市版健幸リビング・ラボを通じた新事業の形成数（事業）	0	0	3	5	8

⑥　評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

実施主体である健幸のまちづくり協議会において、常時の把握や会員からの報告を元にＫＰＩを集計し、自主分析を行い、総会において会員に報告する。その内容について、高石市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定、モニタリング、見直しを行う高石市行政計画審議会において外部的な進捗管理及び評価を行う。

【外部組織の参画者】

学識経験者、行政関係者、商工会議所会頭など

【検証結果の公表の方法】

市HPで公表

⑦　交付対象事業に要する経費

・第５条第４項第１号イに関する事業【A3007】

総事業費　　209,085千円

⑧　事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成32年３月31日（３ヵ年度）

⑨　その他必要な事項

特になし

５－３　その他の事業

５－３－１　地域再生基本方針に基づく支援措置

該 当 な し

５－３－２　支援措置によらない独自の取組

（１）健幸ポイント事業

事業概要：健幸づくりに対する個人インセンティブ事業として、健幸づくり関連事業への参加や体組成の変化、毎日の歩数などに応じてポイントを付与するもの。

実施主体：健幸のまちづくり協議会

事業期間：平成 29 年度～平成 31 年度

６　計画期間

地域再生計画認定の日から平成32年３月31日

７　目標の達成状況に係る評価に関する事項

７－１　目標の達成状況にかかる評価の手法

【検証方法】

実施主体である健幸のまちづくり協議会において、常時の把握や会員からの報告を元にＫＰＩを集計し、自主分析を行い、総会において会員に報告する。その内容について、高石市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定、モニタリング、見直しを行う高石市行政計画審議会において外部的な進捗管理及び評価を行う。

【外部組織の参画者】

学識経験者、行政関係者、商工会議所会頭など

７－２　目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

【数値目標】

	事業開始前（現時点）	平成29年度増加分（１年目）	平成30年度増加分（２年目）	平成31年度増加分（３年目）	KPI 増加分の累計
本事業から生まれた新規雇用者数（人）	0	0	15	25	40
健幸のまちづくり協議会への参加法人数（法人）	0	50	20	30	100
人材バンク登録者と企業とのマッチング数（事業）	0	5	7	10	22
高石市版健幸リビング・ラボを通じた新事業の	0	0	3	5	8

形成数（事業）					

７－３　目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

市 HP で公表